

# 議会運営委員会行政視察報告書

## 1 視察期間

令和7年8月25日から8月26日まで 2日間

## 2 視察都市

- (1) 東京都 杉並区
- (2) 東京都 豊島区

## 3 参加者

秋山勝則委員長、戸塚邦彦副委員長、鈴木弥栄子委員、永田隆幸委員、伊藤克之委員、江塚学委員、芦川和美委員、加藤文重委員、高梨俊弘委員  
小池和広副議長

随員：富田和孝事務局長、磯貝正樹主査

## 4 視察事項

多様な人材の議会への参画について～議会へのオンライン出席について～

・東京都 杉並区

- (1) 多様な人材の議会への参画について
- (2) 多様な人材の議会への参画におけるその他の取組について
- (3) その他、議会運営に係る特色ある取組について

・東京都 豊島区

- (1) 多様な人材の議会への参画について
- (2) 多様な人材の議会への参画におけるその他の取組について
- (3) その他、議会運営に係る特色ある取組について

## 5 考察

次のとおり

## I 杉並区 人口：581,829 人・面積 30.06 ㎡（令和 7 年 7 月 1 日現在）

### 1 多様な人材の議会への参画について

#### (1) 概要

地形としては武蔵野台地上にあり、全体的になだらかな高台地域である。東京 23 区の西部に位置する住宅街で、自然が豊富な閑静な住宅地域として発展してきた。J R 中央線沿線を中心として商店街が発達しており、「中央線カルチャー」と呼ばれる独自の文化を築いている。

議会においては議員の定数は 48 名、平均年齢は 49 歳と若く、男性議員よりも女性議員の方が多い構成となっている。

#### (2) 考察

杉並区は、磐田市とは地域性など環境の違いはあるが、先進的かつ革新的な考えが根付いていると思われた。オンライン会議の導入には、かなり試行錯誤しながら取り組んできたと感じられた。会議は、災害時に加え、重大な感染や育児・介護においてもオンラインでの参加が可能であった。磐田市議会でもコロナ感染を機にオンライン会議の実現に取り組んできた経緯があるが、議員の改選もあり、持続可能な議会運営のためにも、改めて進める必要性を感じた。また、オンライン参加可能条件の整理も今後必要であると思われる。

委員会室の音質も、鮮明かつクリアで聞き取りやすい環境が整っており、オンライン会議では、映像に加え、音声や音質の配慮が重要であるとともに、大型モニターの設置など視覚を活かした議会運営の有効性を感じた。磐田市議会委員会室の音声設備など、オンライン会議に備えしっかり整備しておく必要があると思われる。

ラインワークスの機能である、カレンダー・掲示板・トーク・一斉通信など広範囲にわたり有効的に活用しており、議員と事務局の連携が円滑に行われていた。サイドボックスやラインワークスを、各個人のスマホと連携し、情報の共有を図ることでのスムーズな議会運営が可能であり、有効活用の検討の必要性を感じた。

今後オンライン会議を検討するに当たっては、音響など設備面に加え運営方法なども考慮し、定期的なオンライン会議を開催し、有事の際に備え慣れておく必要性を再認識した。

## Ⅱ 豊島区 人口：296,074 人・面積 13.01 m<sup>2</sup>（令和 7 年 7 月 1 日現在）

### 1 多様な人材の議会への参画について

#### (1) 概要

武蔵野台地の東端に位置し、大型商業施設や飲食店が集まる池袋駅周辺の商業地区を核に、巣鴨や大塚などの住・商混在地、目白などの住宅地で構成される。人口密度は全国 1 位である。

議会の議員定数は 36 名である。平均年齢は約 52 歳と若く、女性の比率は約 36%と高くなっている。

#### (2) 考察

議会へのオンライン出席としては、「豊島区議会委員会条例」にてオンラインを活用した委員会開催の規定を整備し、「オンライン会議実施規定」にて開催方法やその他必要事項を定めている。豊島区では、対象を特定の感染症や大規模災害時としており、出産や介護などは対象とはされていない。その点は今後の課題であるとのことであった。具体的な実施方法（流れ）や次第書における工夫も見られ、丁寧な運用がなされていることが推察された。課題としては、オンライン参加者の音声の聞きづらさがあげられ、会議システムとオンライン会議ツールを連動させた環境整備を進めているとのことであった。

視察した新たな議場においては、モニター 4 台が設置されており、本会議のライブ配信が議場でも確認できるようになっていた。また、ライブ配信は字幕もつき、聴覚障がい者補聴システム（磁気ループ）も整えられており、障がい者や高齢者への対応がなされ、多様な方への配慮を感じた。また、議場の活用にも取り組まれていて、子ども会議や防災サミットなどへも広く開放がなされ、開かれた議会となっていることを感じた。

磐田市議会においても、オンライン会議の取り組みを進め、モニター設置や開かれた議会への取組を進める必要性を再認識した。